第 29 回（通算 147 回）全経簿記検定試験　上級出題予想

商業簿記・会計学

科　　目		第　1　予　想	第　2　予　想	第　3　予　想
商業簿記		決算三勘定	損益計算書	本支店会計
会 計 学	第 1 問	正誤問題	正誤問題	正誤問題
	第 2 問	ソフトウェア	退職給付会計	債権の分類と貸倒見積高の算定
	第 3 問	キャッシュ・フロー計算書	税効果会計	配当可能限度額

なぜこう予想したのか

〔商業簿記〕

商業簿記は近年の出題傾向をみると決算三勘定がほぼ毎回出題されています。

現金預金、固定資産、商品の評価、リース、外貨の頻出論点は細かくチェックしておきたいところです。また、トピックな新株予約権(付社債)についても必ずおさえておきましょう。

第 2 予想には損益計算書をあげました。第 14 回以来出題されていませんが、決算三勘定以外を考えると損益計算書があげられます。連結会計は、前回、出題されたので予想から外しました。第 3 予想の本支店会計は近年の出題はありませんが、出題されたときにあわてないように期末の帳簿の締め切りのところは確認しておいてください。

〔会計学〕

会計学の出題は、近年は正誤問題、理論問題、計算問題と出題パターンが決まっています。

第 1 予想のソフトウェアは新基準のなかでも未だに出題されていない論点であり、理論問題でも計算問題(特に市場販売目的のソフトウェア)でもきかれる可能性はあります。キャッシュ・フロー計算書については第 23 回、第 26 回と定期的に出題されていることから今回は注意が必要です。

第 2 予想の退職給付会計は第 25 回に理論問題で出題されていますが、今回は計算問題が考えられます。税効果会計については第 16 回、第 20 回、第 22 回と定期的に出題されており、第 22 回の出題が理論問題であったことから今回は計算問題が考えられます。

第 3 予想の債権の分類と貸倒見積高の算定は個別問題としてききやすいところであり、特にキャッシュ・フロー見積法は要注意です。

また、現在行われている商法大改正との関係から、改正後は計算方法が変わると思われる配当可能限度額を予想にあげました。

第 29 回（第 147 回）全経簿記検定試験　上級出題予想

工業簿記・原価計算

科　　目	第　1　予　想	第　2　予　想	第　3　予　想
工業簿記	工程別総合原価計算	組別総合原価計算＋ 連産品・副産物	標準原価計算
原価計算	設備投資意思決定	業務執行意思決定＋ 事業部制	直接原価計算＋ ＣＶＰ分析

なぜこう予想したのか

〔第１予想〕

工業簿記は工程別総合原価計算、原価計算は設備投資意思決定としました。

工程別総合原価計算は、部門別個別原価計算とほぼ同じ頻度で出題されており、前回、部門別個別原価計算からの出題であったこと、論点的には出題の余地は十分考えられることから第１予想としました。また、設備投資意思決定は、最近の出題傾向でキャッシュ・フロー概念、加重平均資本コストを重視した管理会計の分野からの出題が多いことから第１予想としました。

〔第２予想〕

工業簿記は組別総合原価計算と連産品・副産物の複合問題、原価計算は差額原価収益分析と事業部制の複合問題としました。

組別総合原価計算と連産品・副産物は、前回、等級製品と連産品の理論での出題があったことから第２予想としました。業務執行意思決定と事業部制の複合問題は、意思決定会計の重要性と最近の出題傾向から第２予想としました。

〔第３予想〕

工業簿記は標準原価計算、原価計算は直接原価計算＋ＣＶＰ分析としました。

標準原価計算は、論点の重要性と工業簿記、原価計算のどちらで出題されてもおかしくない論点であることから第３予想としました。直接原価計算とＣＶＰ分析は、両者の基本的な考え方を発展させた問題が出題されている点と小問形式でも問われやすいという点から、第３予想としました。